

令和7年10月10日
海 事 局

海運先進国当局間会議（CSG）及び国際海運会議所（ICS）との会合を開催

～海運分野における保護主義や地政学的競争、海運の脱炭素化の推進等
について議論しました～

- 9月29日（月）に海運先進国当局間会議（CSG）、9月30日（火）に国際海運会議所（ICS）とCSG間の会合が、デンマーク・コペンハーゲンにおいて開催され、日本から海事局（HOD：中川哲宏外航課長）が出席しました。
- 会議では、米国の海事政策、米中をはじめとする地政学的競争への対応、海運の脱炭素化、船員の労働環境改善など、海運に関する幅広いテーマについて活発な議論が行われ、海運自由の原則の下、CSG 関係国間又はCSG と ICS の間で、引き続き必要な連携・連帯を図ることの重要性等が確認されました。

海運先進国当局間会議（Consultative Shipping Group: CSG）は、国際海運市場への自由アクセスを確保するため18の海運先進国及び欧州委員会（EC）の担当部局の協調行動に向けた検討を行う会議で、国際海運における自由で公正な競争条件の確立に向けた取組を行っている他、航行安全及び海洋環境保護等の幅広いテーマに関する意見交換を毎年1回開催しています。

また、2年に1度、米国海事関係当局とCSGとの間での政策対話（US-CSG会議）を開催しています（今年は非開催）。

日 時：【CSG】令和7年9月29日（月）、【CSG-ICS】令和7年9月30日（火）

場 所：デンマーク（コペンハーゲン）

参加者：海運先進国当局間会議メンバー国※

※【CSGメンバー国（下線は今回会議の不参加国）】

デンマーク（議長、事務局）、ベルギー、カナダ、フィンランド、フランス、ドイツ、ギリシャ、イタリア、日本、韓国、オランダ、ノルウェー、ポーランド、ポルトガル、シンガポール、スペイン、スウェーデン、英国



主要議題の概要については、別紙をご参照ください。

【問い合わせ先】 03-5253-8111（代表）

（全般）

海事局外航課海運渉外室 居石（内線43-352）、03-5253-8620（直通）

（海運の脱炭素化関連）

海事局海洋・環境政策課環境渉外室 木皿（内線43-914）、03-5253-8118（直通）



《主要議題の概要》

海運先進国当局間会議（CSG）における主要議題の概要は以下のとおり。

1. 不確実な時代における国際海運政策

地政学的緊張や安全保障リスクが海運業界に与える影響について議論が行われた。特に、米中対立、IMO（国際海事機関）交渉における政治的対立等を例とした保護主義と地域化への傾向の高まりに対抗する上で、CSG が明確な声を上げる必要性が強調された。また、EU 海域で発生した偽造船やダークフリートの事例を取り上げ、IMO および EU による監視強化の動きと国際的な対応策についても意見が交わされた。日本からは、経済安全保障における海運業や造船業の重要性に係る問題提起のほか、偽造船等に関する情勢等について情報提供した。

2. 海運業界のグリーン・トランジション

IMO において審議中である IMO Net-Zero Framework (NZF) に関して、CSG メンバー国間で、意見交換が行われた。日本からは、今月 IMO で開催される会合に向けて、CSG メンバー国を含む関係各国と連携して対応していく必要性、EU の地域規制である EU-ETS や Fuel-EU Maritime の見直しが必要である等の意見を述べた。

3. 未来の海事人材の育成

脱炭素化やデジタル化の進展によって変化する海事人材需要について検討が行われた。多くの国で若者の海事業界への関心低下が懸念されていることから、ジェンダー平等性等の時代に合わせた課題を考慮したうえで、海上・陸上双方のキャリアの魅力を発信する重要性や、技術革新に対応した教育訓練のアップデートの必要性についても議論が行われた。

【CSG-ICS 会合】

グローバルな海運業界の現状と課題について、CSG と ICS との間で議論が行われた。特に、ICS から、米国の海運政策による懸念や海運のグリーン・トランジションのための IMO Net-Zero Framework (NZF) 採択の重要性が表明された。また、船員の労働環境や新燃料に対応する教育訓練の重要性についても意見交換が行われた。



CSG-ICS 会合の CSG・ICS 両議長